

臨床工学科

臨床工学科には2024年現在、臨床工学技士9名が所属しており、医療機器に関する安全確保と有効性維持の担い手として、また操作を含めた臨床への技術と知識の提供を通じてチーム医療に貢献すべく活動しております。

「臨床工学技士」は高度化する医療機器の専門家として1987年に制定された、医学と工学の知識を兼ね備える国家資格で、医療機器の点検・操作および関連教育を主たる職掌としております。具体的には医師の指示の下、代謝・循環・呼吸療法に関する生命維持管理装置の着脱・設定・操作を行い、また各機器について使用中を含めた定期的な点検を行っております。

病院に配置が義務付けられている“医療機器安全管理責任者”も当院では当科技士が任命されており、病院医療安全の一角を担っています。

【代表的な業務内容】

＜血液浄化療法業務＞

血液透析

透析監視装置の操作・保守・点検

透析液作製装置、水処理装置の保守・点検

透析治療時の治療開始（穿刺含む）・終了時操作、治療中のチェック

透析液水質管理（生菌測定・エンドトキシン測定・ETRF交換・残留塩素測定・軟水試験）

特殊血液浄化療法

持続的血液透析濾過（CHDF）

血漿交換療法（PE）

顆粒球除去療法（GCAP）

腹水濾過濃縮再静注法（CART）

β 2ミクログロブリン吸着療法

LDL吸着療法

エンドトキシン吸着療法 等

透析患者のバスキュラーアクセス（VA）管理

VAエコー検査

経皮的血管拡張術（PTA）の補助業務

病棟透析

COVID-19流行時の対応として、専用病棟にて透析治療が行えるように病院設備、透析機器を整備し実際に治療を行っていましたが、専用病棟の終息に伴い現在は運用停止しています。今後は感染患者以外の病棟透析治療にも対応できるよう、運用を検討しています。

＝特殊浄化療法 R6年度実績＝ ＊実績は3月19日時点

持続的血液透析濾過（CHDF） 7症例 （20回）

腹水濾過濃縮静注法（CART） 2症例 （2回）

エンドトキシン吸着療法 1症例 （2回、CHDF併用）

＝バスキュラーアクセス管理＝

VAエコー検査 233件

経皮的血管拡張術（PTA）の補助業務 119件

<心臓カテーテル関連業務>

毎週 月曜日午後、木曜日午前・午後
心臓カテーテル検査（CAG）、経皮的冠動脈インターベンション（PCI） 等

＝心臓カテーテル関連業務 R6 年度実績＝

CAG 64 件（うち緊急 10 件）
PCI 60 件（うち緊急 26 件）
その他 1 件（心筋生検）

<ペースメーカー業務>

一時ペーシング
植込み時の立ち会い、退院前チェック
ペースメーカー外来 毎月 第 2・3・4 週金曜日午前
その他臨時チェック、プログラム変更 等

<呼吸療法業務>

人工呼吸器の管理、使用毎に次回使用時に備えて呼吸回路の取り付けと使用後点検
医師の指示による動作条件の設定・操作。不具合時の対応

<手術室業務>

麻酔器、生体情報モニターの日常点検
電気メスの定期点検
内視鏡手術装置の日常点検および手術立会い、トラブル対応

<医療機器管理業務>

院内では多種多様な医療機器を用いて治療を行っており、各機器についてそれぞれ使用時に備え常に点検・整備を行っております。

現在取り扱っている医療機器の種類と台数

- 人工呼吸器 16 台
 - 成人用人工呼吸器 6 台
 - 新生児・小児用人工呼吸器 1 台
 - 搬送用人工呼吸器 2 台
 - マスク換気対応人工呼吸器 7 台
- 保育器 9 台
 - 閉鎖式保育器 3 台
 - 開放式保育器 3 台
 - 移動式保育器 1 台
- 麻酔器 6 台
- 除細動器 5 台
- 自動体外式除細動器（AED）13 台

- 大動脈バルーンポンピング 1 台
- ベッドサイドモニター 65 台
- 送信機 73 台
- 透析関連装置
 - 透析監視装置 50 台
 - 個人用透析監視装置 3 台
 - R0 水精製装置 1 台
 - 透析液 A 溶解装置 2 台
 - 透析液 B 溶解装置 2 台
 - 多人数用透析液供給装置 2 台
 - 個人用 R0 装置 1 台
- 持続的血液浄化装置 1 台
- 輸液ポンプ 63 台
- シリンジポンプ 67 台
- 経腸ポンプ 1 台

〈医療機器取り扱い研修会 院内講師〉

透析、輸液・シリンジポンプ、呼吸器、除細動器など院内研修会の講師を務めています。

新規導入時は必ず実施し、既存の医療機器についても安全教育や病棟からの要請により随時行っており、また毎年定期的に開催されている新人看護師研修の講師も務めています。

文責：臨床工学技師長 小林 雄一